



MARUHA NICHIRO

ダブルウェーブレポート

株式会社マルハニチロホールディングス 株主通信

第8期 2011年4月1日 ▶ 2012年3月31日

トップメッセージ

マルハニチログループの挑戦は今、
“新たな段階”をむかえました。

代表取締役社長 久代 敏男

特集 統合から融合へ、グローバル水産・食品企業へと
飛躍するための“布石”

中期三カ年経営計画
「ダブルウェーブネクスト」の核心

被災地復興支援レポート

地域の皆様とともに復興を目指す

冷凍食品加工工場、石巻工場に再び明かりがともった日。

海外現地レポート MARUHA NICHIRO in the World

資源アクセス力を生かした
市場展開を目指して。

トランスヨーロッパ・シーフードセールス社 社長 横田 仁朗



魚をコアに、“世界に美味しいしあわせ”を届ける 水産・食品企業、マルハニチログループ。

マルハニチログループでは、魚をコアに、安心・安全な食品を世界からボーダーレスに買付・加工し、世界の人々にお届けしています。市場のニーズにきめ細かく対応した商品開発能力と、圧倒的な販売力とネットワークを駆使し、多彩な事業をグローバルに展開しています。



マルハニチログループの誕生から5年目。 私たちの挑戦は今、“新たな段階”をむかえました。

旧マルハと旧ニチロが経営統合し、マルハニチログループが誕生してから5年目をむかえました。経営統合以降、当社グループは新しいグループ理念・ビジョンのもと、中期三ヵ年経営計画「ダブルウェーブ21(2008-2010)」を策定し、さまざまな“挑戦”を積み重ねてきた結果、経営基盤の整備や統合効果の発現で着実な成果を挙げてきました。

そして、当社グループの挑戦は今、“新たな段階”をむかえました。グローバル水産・食品企業への飛躍を目指す基盤づくりをテーマとする中期三ヵ年経営計画「ダブルウェーブネクスト」を策定。統合による相乗効果の最大化を図りながら、中核事業の収益力の強化と成長投資、そして財務体質の改善を目標に掲げ、さまざまな施策を展開しています。

その初年度であった2011年度は、安定収益の確保と財務体質の改善に努めた結果、期初に定めた140億円という営業利益目標を、期中に160億円に上方修正し、最終的にはその目標も上回るなど、順調な成果を挙げることができました。

当社グループは、先人から100年以上にわたって受け継いできた“挑戦するDNA”を原点に、この中期三ヵ年経営計画を今後も強力に推進していきます。「世界においしいしあわせ」を届ける企業として、新たな成長ステージへと向かう今後のマルハニチログループにご期待ください。

代表取締役社長 久代敏男



中期三カ年経営計画「ダブルウェーブネクスト」の

核心

2011年10月、マルハニチログループは
 中期三カ年経営計画「ダブルウェーブネクスト」を策定しました。
 ここでは、経営統合から5年目をむかえ、統合効果が徐々に顕在化するなか、
 グローバル食品企業としてさらなる飛躍を目指す
 マルハニチログループが描くビジョンと戦略についてご説明します。

Phase 1 統合期

2008

前中期三カ年経営計画 「ダブルウェーブ21(2008-2010)」

「経営統合の完成」と「統合効果の 追求」を最重要課題として

「経営統合の完成と統合効果の追求」「優良な食材の安定的な供給」「世界市場への挑戦」「経営基盤の整備」を骨子としました。この三カ年で最重要課題であった「経営統合の完成」と「統合効果の追求」については着実な成果を積み重ねた一方で、経営基盤は必ずしも盤石であるとは言い切れないものでした。

2010

Phase 2 融合期

2011

中期三カ年経営計画 「ダブルウェーブネクスト」

世界の市場変化を見据えて 飛躍するための“基礎固め”

前中期三カ年経営計画の基本戦略を発展させ、持続可能でバランスのとれた事業構造を確立し将来への布石を打つ経営計画です。グローバルな展開を志向して飛躍する次期中期三カ年(2014-2016)に向けた基礎固めの期間と位置付け、統合による力を最大限発揮しながら、中核事業の収益力の強化、そして財務体質の改善を全力で進めます。

2013

Phase 3 飛躍期

2014

次期中期三カ年経営計画

“真のグローバル 水産・食品企業”への飛躍

世界人口の増加や健康面からの魚食の見直し、食の多様化などを背景に、魚の消費が急激に増大しており、グローバルな規模で魚の争奪戦が始まっています。次期中期三カ年経営計画では、水産事業においては資源アクセスと海外市場の開拓、食品事業においては収益力の強化と冷凍食品・加工食品等の海外市場でのブランド認知を図り、グローバル水産・食品企業への飛躍を目指します。

2016

ダブルウェーブネクストの数値目標

持続可能でバランスのとれた事業構造づくりを推進し、
“成長への礎”を構築していきます。

2011年度実績

2013年度計画

売上高

8,161億円 ▶ 8,700億円

営業利益

164億円 ▶ 200億円

ROIC

4.7% ▶ 5.7%

有利子負債残高

2,910億円 ▶ 2,750億円

海外売上高

869億円 ▶ 1,000億円

1 Strategy 収益力の強化

重複機能の合理化など統合効果によって強化された経営資源を中核事業(水産・食品両事業)において効果的に活用することを念頭に、高収益事業はさらに拡充し、不採算事業は抜本的対策を講じていくことで、3年目の2013年度には営業利益200億円を目指します。

2 Strategy 財務体質の改善

営業利益の確保、運転資本の圧縮、グループ会社数の削減、不活用資産の処分などにより、最終年度までに約240億円の有利子負債削減を目指します(2013年度末における有利子負債残高目標=2,750億円)。

3 Strategy 海外市場への展開

企業買収も視野に、水産事業では資源アクセスの確保と海外水産物市場に適した加工機能の強化を、食品事業では新興国市場ニーズに適合する商品の開発をしていきます。

4 Strategy 震災からの復興

東日本大震災で被災した生産拠点の迅速な復旧を実現するとともに、物流コスト、事業の効率化、災害への安全性などを総合的に検証し、最適な生産体制を整備します。

久代社長に聞く

中期三カ年経営計画 ダブルウェーブネクスト

Question & Answer

“**ここが
ポイント**”

代表取締役社長
久代 敏男

Question

中核事業のひとつである「水産事業」の注力ポイントは？

Answer

資源アクセス力を強化し、加工機能や欧米での販売など収益事業を拡充します。

水産事業では、調達を担う漁業・養殖事業で引き続き資源アクセス力の強化を図ります。漁業部門では効率的な操業や海外合弁企業設立による操業権益の確保を図り、養殖部門では漁場の拡充と新規漁場の開拓によって事業の拡大を目指します。また、北米事業は、加工機能の強化によって拡販体制を確立し、成長著しい欧米水産物市場における存在感を拡充します。水産商事は、いっそうの安定収益体制を構築し、強みである調達力を生かして、消費者へ直結する商品開発や海外市場も含めた販売チャネルの確立によって販売力を強化していきます。

資源アクセスのさらなる強化

フィリピンで、中国向けに高級魚を養殖

南太平洋で、地元企業と合弁会社を設立

Question

Question

もうひとつの中核事業「食品事業」の注力ポイントは？

Answer

商品開発力の強化、化成品分野の拡大とともに、アジア・オセアニア地域では新規市場の開拓に取り組みます。

冷凍食品事業および加工食品事業は、売上拡大と利益率の向上を最優先課題として、マーケティング力や研究開発部門との連携を強化し、商品開発力の向上と新カテゴリーの創出を図ります。畜産事業は、国内外の生産者と協働して国内市場へ地域ニーズに応じた商材を供給することにより、安定収益基盤を確立します。また、今後の中核事業として期待する化成品事業では、海外原料の調達力を強化するとともに、調味料、精製魚油(オメガ3)、およびサプリメント製品の海外市場での販売を拡大します。アジア・オセアニア事業は将来的収益事業を目指して、グローバル市場への加工拠点としての役割を果たしながら、新興市場である地域への販売拡大を模索します。



常温の介護食も新カテゴリーのひとつ。化成品にも力を入れています

Question

財務体質の改善に向けた目標と戦略を教えてください。

Answer

財務体質を強化し、主力事業へ投下資本を集中します。

財務リスクの軽減、運転資本の効率化、資金管理・統制の強化を図り、主力事業へ投下資本を集中することで、引き続き有利子負債削減を継続し、市場の大きな変化にも対応できる企業基盤の構築を進めていきます。財務リスクの軽減では、ノンコア事業で将来性・グループシナジーの観点から、事業の存廃を判断します。運転資本の効率化では、事業規模と運転資本のバランスを改善し、さらなる有利子負債の削減と、資金のグループ一元管理により資金効率を改善します。

設備投資融資計画

水産セグメント	113億円	漁船建造など
		北米工場生産設備増強など
食品セグメント	248億円	生産工場設備増強など
その他	139億円	物流倉庫建造など

※主な設備投資の詳細は「Highlight 2011」(P7-8)をご覧ください。

Question

海外市場への展開を図る上での注力ポイントは？

Answer

まずは、ブランドの海外認知度の向上に取り組んでいきます。

当社グループでは、将来の成長力確保に向け、さまざまな海外戦略を展開していきます。水産事業においては新たな資源アクセスの確保に加え、成長著しい海外水産物市場に適した加工機能の強化を図ります。食品事業は、海外市場のニーズに対応し、現地および第三国市場向け商品の開発を進め、ブランドの認知度向上を図っていきます。また、シーパック社(タイ)の畜肉のペットフード生産・販売や中国の現地法人の再編による効率的な生産体制の確立、さらには中国・東南アジアにおける現地販売の拡大および各現地法人での新規事業の創出に取り組めます。



シーパック社

マルハニチロは世界規模での調達・加工だけではなく、現地での販売も強化していきます

Question

震災からの復興状況を教えてください。

Answer

迅速な復旧を果たし、最適な生産体制の整備を進めています。

震災の被害を受けた生産拠点は、現在では工場の復旧とともに、国内の生産拠点に機能移転を図ることによって最適な生産体制の整備を進め、主要商品に関してはほぼ震災前の生産能力まで復旧しました。マルハニチロ食品の石巻工場では、フライ類を中心に2011年8月より震災前の生産能力の約4分の1規模にて稼働を再開し、白身タルタルフライ類をマルハニチロ九州に、いか天ぷら類をマルハニチロ食品広島工場に、ソースカツ類をニチロ畜産に移管し、生産を継続しています。同じく仙台工場については再開を断念せざるをえませんでした。一部の業務用ちくわ製造をマルハニチロ食品下関工場へ、乾燥食品は同社白鷹工場へ、冷凍食品はニチロサンフーズに生産を移管しています。

生産移管の状況

会社名/事業所	主要商品	生産移管工場
(株)マルハニチロ食品石巻工場	冷凍食品(白身タルタル類)	(株)マルハニチロ九州
	冷凍食品(いか天ぷら類)	(株)マルハニチロ食品広島工場
	冷凍食品(ソースカツ類)	ニチロ畜産(株)
	冷凍食品(その他)	石巻第3・第4工場
(株)マルハニチロ食品仙台工場	煉製品(ちくわ類)	(株)マルハニチロ食品下関工場
	冷凍食品(春巻類)	(株)ニチロサンフーズ
	乾燥食品(FD類)	(株)マルハニチロ食品白鷹工場
(株)マルハニチロ食品宇都宮工場(化成食品)	化成品(DHA類)	宇都宮工場
	化成品(コンドロイチン類)	宇都宮工場
	化成品(ヒアルロン酸類)	宇都宮工場

Highlight 2011

マルハニチログループは、中期三カ年経営計画「ダブルウェーブネクスト」の成長戦略に沿って水産、食品、保管物流の各事業でさまざまな投融資計画を推進しています。今回はその主だった計画をご紹介します。

水産事業

ピーターパン・シーフーズ社 デリングハム工場で冷凍紅鮭 生産ラインを設置

投融資計画
6
億円

米国アラスカ州の当社グループ会社ピーターパン・シーフーズ社は、鮭、カニ、底魚を扱うアラスカ最大級の水産物加工会社です。その主力工場のひとつであるデリングハム工場では缶詰を主体に事業を展開しており、冷凍H&G*加工は他社に委託してきました。同社および当社グループでは、今後、缶詰相場に左右されにくい事業構造の構築を目指し、2011年4月、デリングハム工場の冷凍加工設備の拡張工事に着手しました。これにより、2012年の鮭シーズンには、日本市場向けに約2,000トンの冷凍紅鮭を生産することが計画されています。

* H&G: 頭・内臓を除去した形態



冷凍紅鮭生産ライン外観

底曳網漁の再生を目指して、 (株)下関漁業が新船を建造

投融資計画
8
億円

山口県および九州北部の以東底曳網漁場は、赤ムツ、アンコウ、鯛、平目など高級魚の好漁場ですが、近年、後継者不足や魚価低迷により漁船数が減少し、4~5年後には現在の50%にまで減少すると予想されています。こうしたなか、当社グループの大洋エーアンドエフ(株)は、2008年、70%を出資して(株)下関漁業を設立し、同漁場で底曳網漁業の再生に取り組んでいます。これまで第一、第二やまぐち丸が稼働していましたが、2011年に新船第三、第五やまぐち丸の建造に着手し、2012年度より操業しています。



第三やまぐち丸

アリエスカ・シーフーズ社を 完全子会社化し、 資源アクセス力を強化

投融資計画
19
億円

当社グループの米国の子会社マルハ・キャピタル・インベストメント社は、米国のワーズ・コープ・パッキング社と合併でアリエスカ・シーフーズ社(ASI)を設立し、アラスカ州ダッチハーバーにてスケソウダラのすりみ、カニ等の水産加工事業を展開していましたが、2011年2月に、ワーズ・コープ・パッキング社の所有持分を購入し、ASI社を完全子会社としました。当社グループが直接的な経営関与をすることによって、資源アクセス力を強化するとともに、ASI社で生産されるすべての製品の販売権を取得し、世界市場へ向けた販売力も強化されます。また、他のグループ北米子会社とのシナジーも今後いっそう期待されます。



アリエスカ・シーフーズ社

食品事業

土谷食品(株)が カップゼリーラインの 生産能力を増強

投融资計画
11
億円

当社グループの食品加工の一翼を担う土谷食品(株)は2011年度にカップゼリーの新生産ラインを増設しました。生産能力の増強に加え、レトルト殺菌装置の設置により、常温保存可能なコーヒーゼリーやプリンなど新タイプの商品も生産可能となっています。また、工場改築により製造室入出時の静脈認証システムや工場内の監視カメラシステムなど、安全・衛生管理上の設備も一段と充実させています。



プリン生産ライン

(株)マルハニチロ九州に 冷凍茹麺設備を設置し 供給力を強化

投融资計画
9
億円

(株)マルハニチロ食品では、主力の大江工場の冷凍茹麺(市販用)生産の設備増強を段階的に実施してきましたが、増強も限界水準に達したため、グループ内でライン増設余地のある(株)マルハニチロ九州に、2011年、設備を設置し

ました。これによって、西日本地区における物流コスト削減だけでなく、拡販および新製品投入も円滑に推進することが可能になりました。

KFフーズ社が 冷蔵庫を増設

投融资計画
9
億円

当社グループのタイにおける冷凍食品の製造・販売を担うキングフィッシャーグループは、業容の拡大に伴い加工原料を恒常的に外部倉庫に依存する状態となっていました。外部に依存する原料は10,000トン以上にのぼり、周辺の倉庫も不足傾向のため、機動的な原料調達に支障をきたすこともありました。そこで、同グループのKFフーズ社において、重量ベースで12,000トンの収容能力を持つ冷蔵庫を2011年に増設し、その問題を解消することができました。



KFフーズ社

保管物流事業

(株)マルハニチロ物流 川崎新センター建設

投融资計画
36
億円

(株)マルハニチロ物流の既存設備は、その大半が原料保管型であり、高機能流通型倉庫が不足していました。同社では、2014年の営業開始を目指して川崎新センターの建設を決定しました。この建設計画は、中長期的なスクラップ&ビルド計画にのっとったもので、高機能流通型倉庫への転換を図りながら、収益力の強化を目指していきます。

新センターの特長

- ・保管能力:約30,000トン
- ・顧客ニーズに即した高品質サービスの提供
- ・運送会社と協業した効果的な配送業務の提供
- ・既存の2つのセンターと機能を分化し、相乗効果を図る



川崎新センター完成予想図

地域の皆様とともに復興を目指す

冷凍食品加工工場、石巻工場に再び明かりがともった日。

2011年8月に操業を再開した石巻工場。
生産設備は震災前の5分の1の規模ですが、復興に向けた第一歩を踏み出しました。
これからも地域の皆様とともに、地域復興に貢献していきます。

2011年8月8日、石巻工場、再稼働

東日本大震災で大きな被害を受けた(株)マルハニチロ食品の石巻工場は、2011年8月8日、その一部が復旧し冷凍食品の製造を再開しました。新装となった工場には製造ラインが復旧し、お弁当用などに人気の高い「いか天ぷら」、「えび天ぷら」、「白身&タルタルソース」などの主力商品の製造が日替わりで行われています。

工場では不足設備を補うために時間を延長して操業していますが、今年度の目標年間生産量は3,000トンで、これは震災前の約3分の1の規模になります。



職場環境を整備し、地域を活性化



石巻工場は65年の歴史を持っており、長年にわたって地元の方々の力に支えられてきました。震災後、6月に400名の従業員をいったん解雇した後、8月にあらためて150名を採用しました。九州や広島など他工場に移籍した方90名を除くと、300名のうち半数の人が、工場再開に向けて集まってくれたことになります。再稼働時はワークシェアリングで勤務時間を短縮してもらっていましたが、現在は操業時間延長に伴い、従業員の生活時間にシフト勤務時間を合わせる形で長く働ける職場環境を整備しています。

地域復興のシンボルとして

2011年8月8日時点で、石巻工場は震災による全壊地区における最も早い復旧事業所となりました。しかし工場周辺は廃屋または瓦礫撤去後の状態で、人が集まり夜間電灯の点いている場所は当工場のみとなっています。地元の皆様からは「暗闇の中でマルハニチロの明かりを見ると励みになる」などの言葉をいただき、私たちも励まされる思いです。このように、工場の復旧が地域の活性化につながり、復興に少しでも役立てられたらという気持ちを持って「一緒ががんばろう」というメッセージを発信し、地元の皆様とともに地域復興に貢献したいと思います。

日和山から望む夜の石巻工場



宮城県石巻市

(株)マルハニチロ食品
石巻工場



石巻工場

2011年度の 営業概況

東日本大震災の被害、世界経済の減速、円高の進行、タイの洪水による生産・サプライチェーンの混乱等により、わが国経済が不安定な状況で推移するなか、水産・食品業界では一部の需要に堅調な動きが見られたものの、震災の影響による電力不足や原料・資材の供給不足に石油価格の高騰が重なるなど、厳しい経営環境となりました。

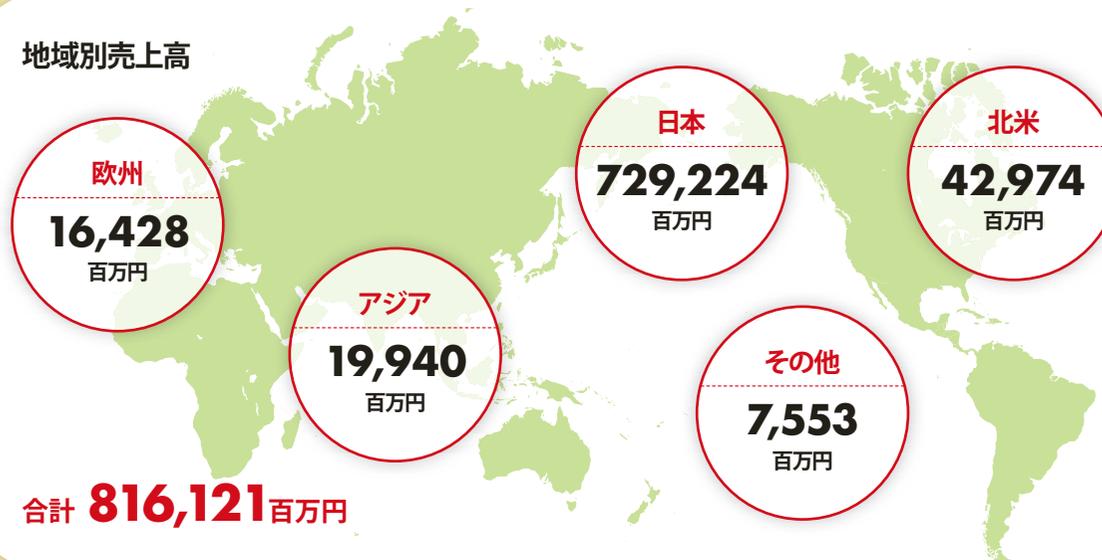
当社グループでは中期三ヵ年経営計画「ダブルウェーブネクスト(2011-2013)」の初年度である当期の目標達成に向け、統合により強化された経営資源を最大限に活用し、いっそうの生産効率の向上と販売力の強化に努めました。

その結果、売上高は816,121百万円、営業利益は16,431百万円、経常利益は14,878百万円、当期純利益は3,385百万円となりました。

(単位:百万円)

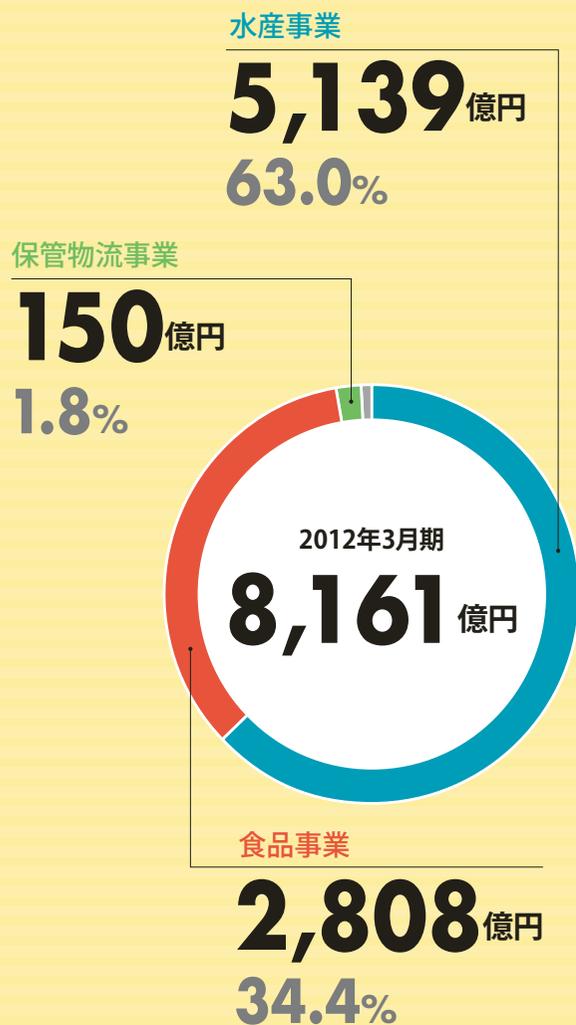
財務ハイライト	2010年3月期	2011年3月期	2012年3月期
売上高	828,715	823,399	816,121
営業利益	10,763	17,418	16,431
経常利益	7,751	15,083	14,878
当期純利益	1,586	3,606	3,385
総資産	501,383	474,281	468,054
純資産	79,449	71,671	73,737
1株当たり当期純利益(円)	2.67	6.66	6.38
1株当たり純資産(円)	106.91	101.93	106.61
自己資本比率(%)	13.1	12.4	13.1

地域別売上高



セグメント別営業概況

売上高構成比率



水産事業

国内外の市場動向を注視しながら、お客様のニーズに対応した的確な買付販売と加工事業の強化により、収益の確保に努めました。

売上高は513,919百万円、セグメント利益は7,954百万円となりました。

- ▶ 漁業・養殖ユニット
- ▶ 北米ユニット
- ▶ 水産商事ユニット
- ▶ 荷受ユニット
- ▶ 戦略販売ユニット

関連会社

- マルハニチロ水産
- 大洋エーアンドエフ
- 大都魚類
- ウェストワード・シーフーズ
- ピーターパン・シーフーズ 等

● 漁業・養殖ユニットは、マグロの台風被害、カンパチ等の価格下落により減収となったものの、養殖マグロの単価アップにより増益となりました。

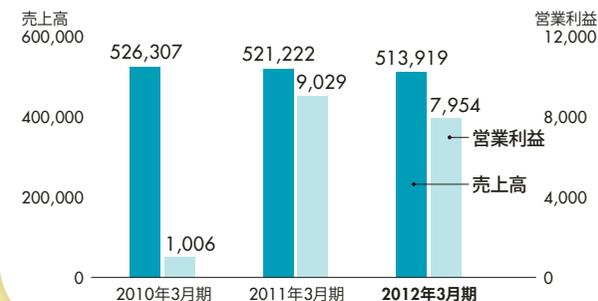
● 北米ユニットは、ズワイガニ、スケソウダラの漁獲枠増枠により、すりみ等関連製品の取り扱いが大幅に増加し増収となりましたが、震災の影響により国内での助子加工品の取り扱いが大きく減少し利益は前年並みとなりました。

● 水産商事ユニットは、既存チャンネルへの積極販売と加工事業の強化を進めましたが、世界的な水産物の消費拡大傾向によるコスト高に対し、国内は引き続き低価格競争の環境下であり、売上は前年並みとなりました。

● 荷受ユニットは、国内漁獲量減少による鮮魚入荷量の減少、水産物の消費低迷に伴う販売不振のなか、販売費等コスト削減を図ったものの、一部で退職給付費用が増加したことなどから、減収減益となりました。

● 戦略販売ユニットは、量販店ルートにおいて既存取引先との取り組み強化と新規得意先開拓を進め、また外食・中食業態向け販売も好調に推移した結果、増収増益となりました。

売上高／営業利益推移
(百万円)



食品事業

食品事業では、お客様のニーズにおこたえする商品の開発・製造・販売を通じて収益の確保に努めました。

売上高は280,792百万円、セグメント利益は9,562百万円となりました。

- ▶ 冷凍食品ユニット
- ▶ 加工食品ユニット
- ▶ 畜産ユニット
- ▶ 化成品ユニット
- ▶ アジア・オセアニアユニット

関連会社

- マルハニチロ食品
- マルハニチロ北日本
- アクリフーズ
- マルハニチロ畜産
- ニチロサンフーズ
- アイシア
- キングフィッシャーホールディングス 等

● 冷凍食品ユニットは、米飯や冷凍野菜等が好調に推移し増収となりましたが、石巻等の生産拠点における震災被害の影響が大きく減益となりました。

● 加工食品ユニットは、飲料の受託を行う山形の生産拠点を整理した影響等で減収となりました。缶詰の販売が好調ながらペットフードの原料高騰や価格競争、デザートの原因高騰、在庫調整や償却負担増等の要因で減益となりました。

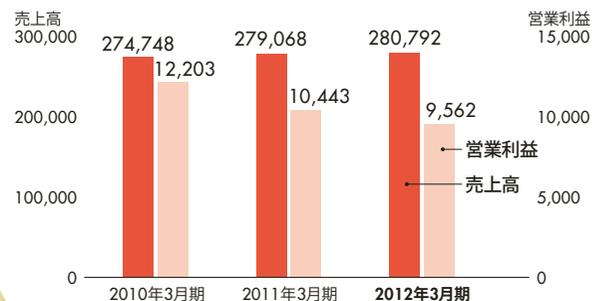
● 畜産ユニットは、震災後の畜肉調達と販売の環境が激変するなか、若干の減収にとどまったものの、原料価格上昇や新規生産品の立ち上げ遅れ等で利益幅が圧縮され減益となりました。

● 化成品ユニットは、震災による供給不足を懸念した海外取引先の仮需等によりバイオ関連事業が増収となりましたが、調味料やフリーズドライ事業の生産拠点が被災したことで、全体では減収増益となりました。

● アジア・オセアニアユニットは、タイの冷凍食品・缶詰の販売で欧州向けが減収となりましたが、日本、米国、豪州向けが好調に推移し、全体として増収増益となりました。昨秋のタイの洪水における直接的な被害はなく、事業への影響は軽微でした。

売上高／営業利益推移

(百万円)



保管物流事業

お客様のニーズにおこたえする品質を備えた物流サービスを提供し、収益の確保に努めました。

売上高は14,984百万円、セグメント利益は1,365百万円となりました。

- ▶ 保管物流ユニット

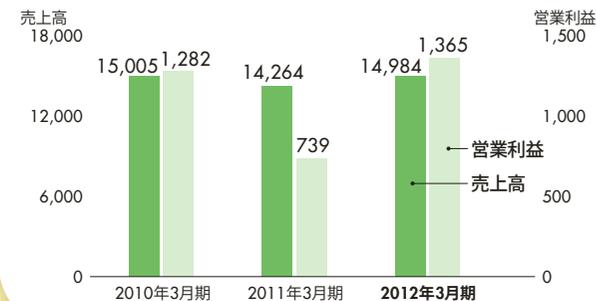
関連会社

- マルハニチロ物流 等

● 保管物流事業では、水産物をはじめ、畜産品や冷凍食品の集荷に注力した営業活動を行いました。関東エリアの大型センターを中心に集荷が進み、前期より高い水準の在庫数量で推移いたしました。

売上高／営業利益推移

(百万円)



注目の新製品



小鉢倶楽部 和惣菜缶詰シリーズ 6品

いつでもすぐにおいしいお惣菜を
いただける小鉢料理6品

“お惣菜屋さん”をコンセプトに、「切干大根旨煮」や「たけのこおかか煮」など小鉢料理6品を新たにメニュー化し選ぶ喜びを提供。震災により缶詰の価値が見直されるなか、即食型のおかず缶詰として、いつでもすぐにおいしいお惣菜を召し上がっていただけます。



マルハニチロ食品
市販用食品第一部 市販用缶詰課
課長代理 武長 康裕

開発担当者の声

前処理方法の工夫と高真空製法を駆使し、生産委託工場の力強い協力のもとに生まれた、缶詰の可能性の高さを感じさせる商品です。

レンジだけ! ちゃんぽん

お湯も、鍋もいらない。
レンジだけで具沢山の本格的なちゃんぽん

完全レンジ調理でお湯、鍋いらずの一品にチャレンジしました。コシのあるモチモチ食感のレンジ対応麺を開発し、粉末や濃縮スープでは再現できないストレートスープによって本格的なちゃんぽんを簡単に味わうことができます。

開発担当者の声

「レンジだけ!」というこの商品の一番のポイントを、「いかに商品設計していくか」に挑戦した一品です。



マルハニチロ食品
市販用冷凍食品部 商品開発課
課長代理 貞閑 智範



ちょっと贅沢 今日のかだもの 北海道メロンゼリー

メロンのリアルな食感を表現した
果汁感たっぷりのゼリー

従来のフルーツゼリーとは異なり、ゼリーのみでリアルな果肉感を表現。北海道の赤肉メロンピューレをたっぷり使った、豊かな香りとジューシーでコクのある“ちょっと贅沢”な味わいに仕上がっています。



マルハニチロ食品
市販用食品第二部 デザート課
課長役 阿井 正明

開発担当者の声

果肉をそのまま入れるという発想を転換し、本物の北海道メロンピューレをゼリーに入れ、ゼリーそのものの食感を生かしています。



注目の話題

◎料理研究家・管理栄養士 村上祥子監修 簡単！おいしく！今日のひと品 やわらかちらし寿司

電子レンジで簡単 容易にかめるちらし寿司

料理研究家・管理栄養士の村上祥子先生の監修で、女子栄養大学の月刊誌「栄養と料理」とのコラボレーションから生まれた「今日のひと品」シリーズ。容易にかめるやわらかさのユニバーサルデザインフード区分1に該当する、電子レンジで簡単に調理可能なちらし寿司です。やわらかく、おいしく召し上がっていただける商品に仕上げました。

開発担当者の声
ほのかな酢の香りと具材の彩りを楽しんでください。



マルハニチロ食品
メディケア営業部
都丸 恵理



「メディケア食品」
応援隊長 メディベア



マルハニチロ食品が「さかなクン」を イメージキャラクターに起用！

フィッシュソーセージのCMをはじめ、冷凍食品などのキャンペーンキャラクターとして、お魚の豊富な知識と経験でお茶の間で大人気の「さかなクン」を起用し、好評を博しています。



「スカイツリーソーセージ」の宣伝隊長に、 空木常務が着任！

2012年5月の東京スカイツリー開業を祝して、マルハニチロ食品では「くるんパック東京スカイツリー®ソーセージ」を発売しました。名前の漢字を英語に訳すと「スカイツリー」となる空木(うつろぎ)常務を宣伝隊長として、話題づくりと販売促進をバックアップしています。



冷凍食品が人気バラエティー番組に登場！ 大きな話題に

マルハニチロ食品の冷凍食品が「お願い！ランキング 美食アカデミー」(テレビ朝日、2012年3月9日放送)、「お試しっ！人気メニューベスト10を全部当てるまで帰れま10(テン)」(テレビ朝日、2012年4月16日放送)などに取り上げられました。大きな反響を呼び、冷凍食品の技術力、おいしさを広く知っていただく絶好の機会となりました。



■ 連結損益計算書の概要

(単位:億円)



POINT 1 売上高

販売力の強化に注力しましたが、売上高は前期に比べ7,278百万円減少し、816,121百万円となりました。

POINT 2 営業利益

生産効率の向上や、コストの圧縮に努めるも、営業利益は前期に比べ987百万円減少し、16,431百万円となりました。

POINT 3 経常利益・純利益

経常利益は前期に比べ205百万円減少し、14,878百万円となりました。当期純利益は221百万円減少し、3,385百万円となりました。

■ 連結貸借対照表の概要

(単位:億円)



(単位:億円)



POINT 1 資産

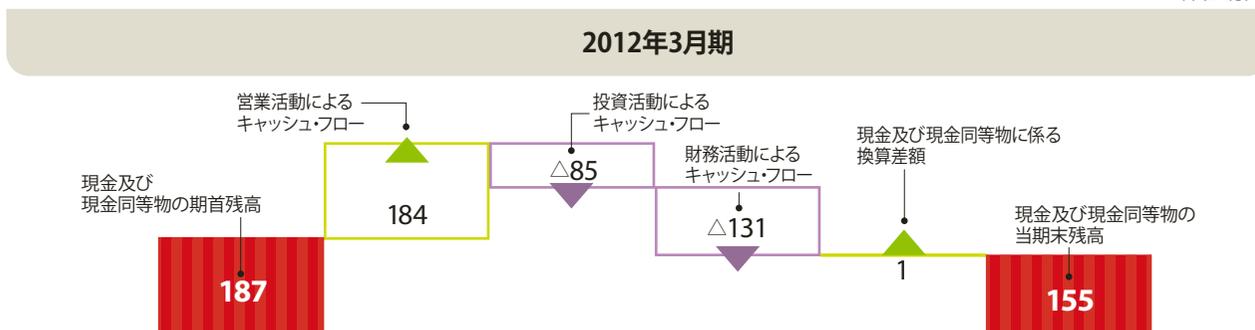
総資産は468,054百万円となり、前期に比べ6,227百万円減少しました。これは、主として繰延税金資産が流動・固定合計で5,966百万円減少したことなどによるものです。

POINT 2 負債

負債は394,316百万円となり、前期に比べ8,294百万円減少しました。これは、主として借入金の減少によるものです。

■ 連結キャッシュ・フロー計算書の概要 **POINT 3**

(単位:億円)



POINT 3 連結キャッシュ・フロー計算書

営業活動によって得られた資金は18,369百万円となり、前期に比べ10,069百万円減少しました。投資活動によって使用した資金は、主に設備投資によるもので、8,523百万円となり、前期に比べ876百万円減少しました。財務活動によって使用した資金は、主に借入金の返済によるもので、13,149百万円となり、前期に比べ11,899百万円減少しました。当期における現金及び現金同等物の期末残高は15,473百万円となり、前期末に比べ3,189百万円減少しました。



From Netherlands

オランダ

MARUHA NICHIRO in the World

資源アクセス力を生かした市場展開を目指して。

資源アクセスの優位性を生かし、 消費者に近いところで事業を展開。

欧州向け水産物の販売拠点と欧州情勢についての情報収集を担うトランスヨーロッパ・シーフードセールス社(TESS)は、オランダ・アムステルダムを拠点とし、スケソウダラのすりみやフィレ(三枚卸し)など、北米アラスカ州のグループ加工場が生産・供給する商材を中心に取り扱っています。マルハニチログループが持つ資源アクセス力を市場に直結できることが当社の大きな強みであり、直接ユーザーの声を聞いてきめ細やかな対応を実現することで、安定した供給・販売ネットワークを構築しています。

欧州市場のユーザーニーズを 満たす加工品を提供。

北大西洋の豊かな水産資源に恵まれた欧州には、日本に勝るとも劣らない豊かな魚食文化があり、例えばポルトガルの塩だら(バカラオ)は千年近い歴史を持つ伝統食です。近年は健康志向の高まりからも魚食が推進されており、寿司をはじめとする日本食も定着しつつあります。マルハニチログループの原料調達力と、蓄積された高度な加工食品の技術・ノウハウを生かして欧州市場のニーズに合った商品を開発・提供することで、同市場におけるブランド力の強化にチャレンジしていきます。



トランスヨーロッパ・シーフードセールス社
Trans-Europe Seafood Sales B.V. (TESS)
社長 横田仁朗



TESSの取り扱い商材を
使って作られた製品

塩だら(バカラオ)



フィッシュスティック



カニ風味かまぼこ

会社概要 (2012年3月31日現在)

会社名	株式会社マルハニチロホールディングス
所在地	東京都江東区豊洲3-2-20
設立	2004年4月 (2007年10月に、株式会社マルハグループ本社から株式会社マルハニチロホールディングスに社名変更)
資本金	310億円
グループ会社	179社(国内89社、海外90社) <ul style="list-style-type: none"> ●連結子会社 89社 ●非連結子会社 25社(うち持分法適用会社3社) ●関連会社 65社(うち持分法適用会社21社) マルハニチロ水産、マルハニチロ食品、マルハニチロ畜産、マルハニチロ物流、マルハニチロマネジメント、大都魚類、神港魚類、大洋エーアンドエフ、ニチロサンフーズ、アクリフーズ、アイシア、ウェストワード・シーフーズ、ピーターパン・シーフーズ、キングフィッシャーホールディングス その他

役員体制 (2012年6月26日現在)

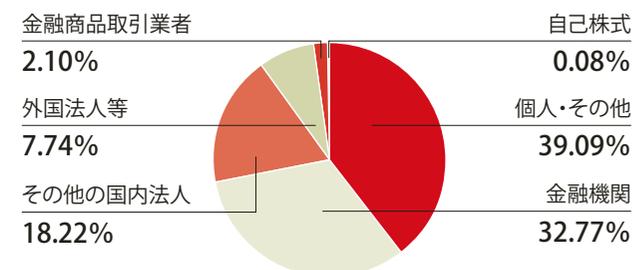
※社外役員

役職	氏名
代表取締役社長	久代 敏男
代表取締役副社長	伊藤 滋
代表取締役副社長	坂井 道郎
常務取締役	今村 宏
常務取締役	村田 彰徳
取締役・執行役員	渡辺 淳
取締役・執行役員	根本 渡
取締役※	長野 彪士
取締役※	中部 由郎
取締役	三田村 知尋
常任監査役※	永井 俊行
常任監査役※	川村 融
監査役※	八幡 秀昭
監査役	榊 三男

株式の状況 (2012年3月31日現在)

発行可能株式総数 1,196,000,000株	普通株式 1,170,000,000株	第一種優先株式 26,000,000株
発行済株式の総数 516,754,159株	普通株式 510,024,159株	第一種優先株式 6,730,000株
株主数	普通株式 73,923名	第一種優先株式 16名

所有者別株式数分布状況 (普通株式)

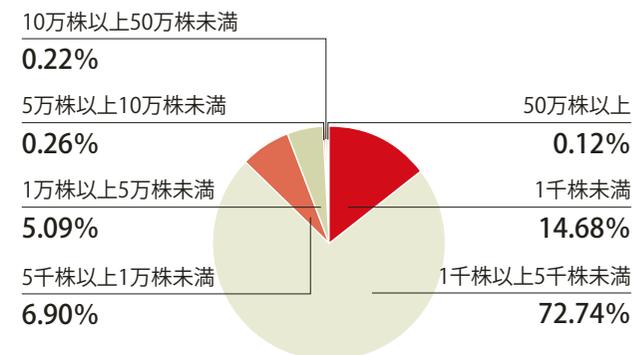


株主優待

当社では、株主の皆様の日頃のご愛顧におこたえするとともに、当社株式を長期に保有していただける魅力あるものにするを目的として株主優待制度を実施しております。

1 対象株主様と実施の内容	毎年3月31日の最終の株主名簿に記載または記録された1千株(1単元)以上を保有していただいている普通株主の皆様を対象として、年1回実施いたします。
2 優待の内容	当社グループで取り扱っている商品、サービスの無償提供または優待割引を行います。

所有数別株主数分布状況 (普通株式)



■ 株主メモ

事業年度	毎年4月1日から翌年3月31日まで
定時株主総会	毎年6月
基準日	定時株主総会の議決権:毎年3月31日 期末配当:毎年3月31日 そのほか必要があるときはあらかじめ公告して 定めた日
株主名簿管理人・ 特別口座の 口座管理機関	東京都千代田区丸の内一丁目4番5号 三菱UFJ信託銀行株式会社
同連絡先	三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部 〒137-8081 東京都江東区東砂七丁目10番11号 フリーダイヤル 0120-232-711(通話料無料)
上場証券取引所	東京証券取引所
公告の方法	電子公告の方法により行います。 公告掲載URL http://www.maruha-nichiro.co.jp/ (ただし、電子公告によることができない事故、 その他のやむを得ない事由が生じたときは、 日本経済新聞に掲載します。)

ご注意

- 株券電子化に伴い、株主様の住所変更、買取請求その他各種お手続きにつきましては、原則、口座を開設されている口座管理機関(証券会社等)で承ることとなっております。口座を開設されている証券会社等にお問い合わせください。株主名簿管理人(三菱UFJ信託銀行)ではお取り扱いできませんのでご注意ください。
- 特別口座に記録された株式に関する各種お手続きにつきましては、三菱UFJ信託銀行が口座管理機関となっておりますので、上記特別口座の口座管理機関(三菱UFJ信託銀行)にお問い合わせください。なお、三菱UFJ信託銀行全国各支店にでもお取次ぎいたします。
- 未受領の配当金につきましては、三菱UFJ信託銀行本支店でお支払いいたします。

■ 株式諸手続きのご案内

●特別口座に記録された株式

お手続き、ご照会等の内容

- ・特別口座から一般口座への振替請求
- ・単元未満株式の買取(買増)請求
- ・住所・氏名等のご変更
- ・特別口座の残高照会
- ・配当金の受領方法の指定(※)
- ・郵送物等の発送と返戻に関するご照会
- ・支払期間経過後の配当金に関するご照会
- ・株式事務に関する一般的なお問い合わせ

お問い合わせ先

特別口座の口座管理機関・株主名簿管理人
三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部
〒137-8081 東京都江東区東砂七丁目10番11号
フリーダイヤル0120-232-711(通話料無料)

お手続き書類のご請求方法

- ▶音声自動応答電話によるご請求
フリーダイヤル 0120-244-479(通話料無料)
- ▶インターネットによるダウンロード
<http://www.tr.mufg.jp/daikou/>

(※)特別口座に記録された株式をご所有の株主様は、配当金の受領方法として株式数比例配分方式はお選びいただけません。

●証券会社等の口座に記録された株式

お手続き、ご照会等の内容

- ・郵送物等の発送と返戻に関するご照会
- ・支払期間経過後の配当金に関するご照会
- ・株式事務に関する一般的なお問い合わせ

お問い合わせ先

株主名簿管理人
三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部
〒137-8081 東京都江東区東砂七丁目10番11号
フリーダイヤル0120-232-711(通話料無料)

上記以外のお手続き、ご照会等

口座を開設されている証券会社等にお問い合わせください。

ホームページ、Facebookページのご案内

マルハニチロホールディングスでは、ホームページおよびFacebookページを通じて、株主の皆様のお役に立つ情報をタイムリーに公開しています。ぜひご利用ください。

● ホームページ

IR情報をはじめ、財務ハイライト、事業内容、CSR活動、プレスリリースなど詳細な情報を掲載しています。IRレポート、CSR報告書、決算短信などの資料もダウンロードしていただけます。



<http://www.maruha-nichiro.co.jp/ir/>

● Facebookページ

Facebookは、SNS(ソーシャル・ネットワーキング・サービス)のひとつで、ユーザーが企業・団体、他のユーザーと双方向の情報交流ができるサービスです。マルハニチログループのページで「いいね!」ボタンを押していただくと、最新情報を自動的に、リアルタイムで入手できます(Facebookへのユーザー登録が必要)。

現在、IR情報をはじめとした最新のトピックス、新製品やキャンペーン情報、拠点情報、CSR活動の様子などを公開しています。



<http://www.facebook.com/MaruhaNichiro>

世界に美味しいしあわせを

株式会社マルハニチロホールディングス

〒135-8603 東京都江東区豊洲三丁目2番20号 豊洲フロント
TEL:03-6833-4134 FAX:03-6833-0396